

1. 京都府産木材の需給情報を共有する仕組み（第1回検討会議のまとめ）資料2

京都府産木材の需給情報を共有する仕組み

<想定される機能>

- 需要・供給情報の標準フォーマットの整備
—情報の精度、鮮度、シンプルさに留意
- 情報収集と共有するシステムの作成・運営
—木材の質と量に関する情報の取扱い
- 情報に基づくマッチングの支援、需給調整
—計画数量の達成を促す仕組みの検討

需要情報の提供

<大口需要先>
樹種、径級、曲がり（規格）、量の情報

中長期的な計画に基づく需要量

<小口需要先>
利用者が望む木材（認証材等）、特殊材の情報

短中期的な計画に基づく需要量

森林情報の提供 生産現場情報の提供

<森林情報>
最新技術を用いて取得された高精度の森林資源情報

<生産現場情報>
森林経営計画、伐採前の現地調査の情報

木材加工業者

製材工場（小口）

（大口）合板工場

（大口）チップ工場

（大口）CLT用ラミナ製材工場

需要量：約 47 万m³
府内産：約 14 万m³（シェア30%）

マッチング支援
需給調整

需要・供給情報の共有による
京都府産木材の安定供給

<需給調整機能の役割分担>

木材市場：小口需要先向けの木材
ストックヤード：大口需要先向けの木材

京都府産木材の生産

素材生産量：約 17 万m³

<今回の論点>

マーケットインに対応した
木材生産体制をどう構築すべきか